

TPP 話題に意見交換

「現場の声を」
農業者訪問

豊橋で民主・岡田代表



民主党の岡田克也代表が22日、豊橋市入りした。全国屈指の農業地帯・豊橋、田原両市の農業を支えている農業者らとTPP（環太平洋

経済連携協定）を話題に意見交換した。

同市二川町の江戸時代の商家「駒屋」が会場となった催し

豊橋百農人が生産、加工した農産物を視察する岡田代表―駒屋で

に出店した生産者らでつくる「豊橋百農人」のもとを、党愛知県第15総支部長・関健一郎氏らの案内で訪れた。

「現場の声を聞きたい」と、百農人の30～50代のメンバー7人にTPPの賛否を尋ねながら意見を交わした。

賛成のメンバーからは「海外から安い農産物が入る時代。認めた上で何をしていくのかの考え方が農業に必要」。反対

の考えの農家からは「豊橋の中で全て自給自足できることが大事。小さな圏内で農工商のバランスがとれた地域に」との声が出た。

反対とする別のメンバーは「避けることはできないが、50年、100年先を考えた対策を考えてほしい」と要望。岡田代表が「生産物を輸出する考えは」と聞くと「日本の農業を守った上で輸出の可能性を探りたい」と話した。

関氏と駅前 で街頭演説

この後、岡田代表と関氏は豊橋駅前ですり街頭演説した。

（中村晋也）